

# 23年度アスファルト合材製造量

# 過去最低の3449万トに

日合協

# コスト上昇、工事量は減少

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）

の調査結果（速報値）によると、2023年度に会員企業の工場861カ所で製造したアスファルト合材は、前年度比6・1%減の3449万トだった。会員

以外の企業を含む製造数量

（予想値）は6・4%減の3630万トと過去最低を見込む。各種コストの上昇を背景に工事量が減少しているとみられる。ピークの1992年度（8083万ト）の半以下となってい

る。

会員企業の製造数量の内訳を見ると、高規格道路など向けの新規材が9・4%減の830万ト、一般道が多い再生材は5・0%減の2619万ト。製造数量に占める再生材の割合（再生

合材製造率）は0・8%上昇の75・9%だった。製造量を地域別で見ると全10地区で前年度を下回った。

合材工場の稼働率は全国平均が3・6%低下の33・2%。全国平均を上回った

のは関東（43・8%）と中部（37・8%）の2地区にとどまる。最も低い沖縄は

17・9%、次に低い北海道は23・7%と2割程度の稼働率で、いずれも前年度と

比べ低下した。

会員以外を含む工場数は1009カ所と前年度と同

じだったが、製造量が減少している傾向を踏まえ日合協は「近く1000カ所を切る可能性がある。地域の道路を守ることが難しくな

ってくる」と危機感を募らせる。

燃料費や労務費、運搬費といった合材製造や舗装工

事に関わる各種コストが上昇している。国や地方自治

体など発注機関の舗装工事予算が増えないため相対的に

工事量も減少し、アスファルト合材製造量の減少に

つながっていると見られる。

舗装工事は路面の表層だけを張り替える切削オー

バーレイ工法が中心となっており、合材を多く使用する工法が増えないことも一

因となっている。

打ち替え工事が伸び悩む中、路盤材として再生利用

されていたコンクリートガラ

の受け入れ先がなくなっている。建築需要が旺盛な

首都圏では、建築物の解体に伴いコンクリートガラも

多く発生しており、これらの処分や活用が課題となっている。

